

博士論文審査報告書

氏名	古田 伸子			
学位の種類	博士（心理学）			
学位記番号	院博甲第 27 号			
授与機関	東京成徳大学			
学位授与年月日	2023 年 3 月 17 日			
学位授与条件	学位規則第 5 条第 1 項			
学位論文題目	中学校教師が抱く信頼感と情動コンピテンスが 職場環境を介して生徒への指導行動に及ぼす影響			
論文審査委員	主査	田村 節子	東京成徳大学大学院	教授
	副査	石隈 利紀	東京成徳大学大学院	教授
		茂呂 雄二	東京成徳大学大学院	教授
		西村 昭徳	東京成徳大学大学院	准教授

1. 論文概要：(1) 目的、(2) 方法、(3) 結果及び考察

(1) 目的

本論文では、中学校教師が自己や他者に抱く信頼感（自分や他人を安心して信じ頼ることができる気持ちである信念）と情動コンピテンス（自己や他者への情動を同定・理解、表現、調整、利用する能力）に焦点をあて、職場環境を介して生徒への指導行動にどのような影響を及ぼしているのか明らかにすることを目的とした。

(2) 方法

本論文は 6 つの研究から構成される。全国の公立中学校に勤務する一般教諭（研究 1～3 は 382 名、研究 4～6 は 433 名）を対象に、質問紙調査・インターネット調査、インタビュー調査を行い、量的データに質的データを収斂させる混合研究法により分析を行った。

(3) 結果及び考察

研究 1・2 と研究 4 の結果から、信頼感や情動コンピテンス、職場環境との関係に年代差が示された。また、職場環境の違いが信頼感や情動コンピテンスに影響を与えていることが明らかとなった。信頼感や情動コンピテンスを典型的に捉えた結果、自他への信頼および情動コンピテンス自己領域を高く認知している群が、職場の協働的風土を認識しやすいことが示された。

研究 3 では生徒への指導行動尺度に基づき信頼感類型別の特徴を分析した。生徒認知の方法や指導行動に違いがあることが示された。

研究 5 では、新たに中学校の職場環境調査尺度を作成し、管理職の影響についても検討した。管理職の温かな声かけや励まし・笑顔が日常的に教師に伝わることや、問

題発生時には管理職が責任をとると表明し的確な指示を出すことで安心感や信頼感につながり、若い教師の「こうなりたい」というロールモデルになっていた。

研究6では、職場環境を媒介要因として、信頼感と情動コンピテンスが生徒への指導行動に及ぼす影響を検討した結果、信頼感の否定的側面は、協働的風土であれば生徒への親和的・共感的な指導が促進されることが示され、教師がネガティブな感情を抱いていても、教師集団の支え合いや高い職務意識がある職場では、生徒志向的な指導が高まることが明らかとなった。一方で、情動コンピテンス他者領域は、協働的風土にあると生徒への親和的・共感的な指導が減少した。情動コンピテンス他者領域は、他者の情動を利用する能力が含まれているため、協働的風土と認知すれば、生徒志向的な指導を未熟な教師に意図的に任せ、教師としての成長を促すなど教師集団の戦略的な意味が推察された。

2. 評 価 :

本論文は、中学校教師が自己や他者に抱く信頼感と情動コンピテンスが職場環境を介して生徒への指導行動にどのような影響を及ぼしているのか明らかにするために、全国の中学校教諭のべ815名を対象とする調査を行い、量的かつ質的に分析した。量的・質的データの分析を補完的に活用する混合研究法としては限界があるが、分析は一定のレベルに達しており、総合的に優秀な博士論文として評価できる。本研究は、教員の自己理解を深めるための研修や指導に困難を抱える教師へのスクールカウンセラーによるコンサルテーションにおける視点として、実践的示唆を与えるものとしても評価できる。

3. 最終試験結果 :

2023年2月4日、公開において、論文提出者より報告を受け、質疑応答が行われた。その結果、最終試験に合格と判断された。

4. 結 論 :

論文審査と最終試験結果の評価に基づいて、本論文は博士の学位に値すると判断された。

2023年2月17日